

2015. 6.

中央調査報

(主な内容)

- 第 5 回日本の医療に関する意識調査
～日医総研ワーキングペーパー No.331より～
..... 1
- 告知板..... 10

第 5 回日本の医療に関する意識調査 ～日医総研ワーキングペーパー No.331 より～

江口 成美(日本医師会総合政策研究機構(日医総研) 主席研究員)
 出口 真弓(日本医師会総合政策研究機構(日医総研) 研究員)

1. はじめに

超高齢社会の中、国民が安心して医療を受けられる環境を整備し、より多くの国民が健康で長寿を全うできる地域社会の構築が求められている。国が推進する社会保障の改革の一環として、各都道府県は地域医療構想の策定を今年度より開始することとなるが、医療政策立案においては、行政や医療提供者の視点だけでなく、医療の受療者である国民の意見やニーズがしっ

かりと反映されるべきであることは言うまでもない。日医総研では、医療の受け手である国民・患者の医療への意識やニーズを継続的に把握し、今後の医療提供のあり方を検討する基礎資料の作成を目的に、2002 年より継続的に意識調査を実施してきた。本稿では、第 5 回となる調査結果から一部抽出して紹介したい。なお、第 5 回調査では、従来からの個別面接調査法に加えて、WEB 調査も併せて実施した。

【調査内容】

- ・ 医療保険、医療制度に関する知識 等
- ・ 診療の受け方に関する意識
- ・ 満足度（受けた医療、日本の医療全般、生活）
- ・ かかりつけ医に求める医療
- ・ 重点課題、医師患者関係、個別医療
- ・ 健康のために気を付けていること
- ・ 保険制度についての考え
- ・ 介護者に関する意識
- ・ 健康意識、不安に感じること
- ・ 医療安全について 等

【調査方法】

- ・ 面接調査：全国の 20 歳から 79 歳の居住者を全国 157 地点から層化 3 段無作為抽出
有効回収数：1,122
 - ・ WEB 調査：地域（12 ブロック）と市郡規模（3 区分）から比例サンプリングを実施
有効回収数：5,667
- ※これらの調査では回答者に実施主体者名（日本医師会総合政策研究機構）を公開していない

【調査実施期間】 2014 年 8 月

【回答者属性】

表1 居住地域 n=1,122 n=5,667

	面接	WEB
北海道	5.2%	4.6%
東北	7.5%	7.3%
関東甲信越・北陸	32.4%	10.7%
東京	10.0%	26.0%
中部	10.7%	14.5%
近畿	14.9%	16.8%
中国・四国	9.4%	9.0%
九州	10.0%	11.1%

表2 年齢 n=1,122 n=5,667

	面接	WEB
29歳以下	11.3%	11.6%
30～39歳	16.7%	17.1%
40～49歳	16.7%	22.1%
50～59歳	13.4%	19.0%
60～69歳	18.9%	17.5%
70歳以上	23.1%	12.7%

表3 性別 n=1,122 n=5,667

	面接	WEB
男性	46.4%	49.2%
女性	53.6%	50.8%

2. 調査結果

(1) 医療満足度の推移

① 「受けた医療の満足度」、「日本の医療全般の満足度」の推移

本調査では、医療満足度を「自身が受けた医療」と「日本の医療全般（医療制度など）」に分けて調査している。「受けた医療」の満足度は極めて高い傾向がみられ、「医療全般」の満足度についても上昇の傾向がみられた。今回調査では医療全体の満足度は69.5%で約7割に達した。（図1）

② 不満（満足していない）の理由

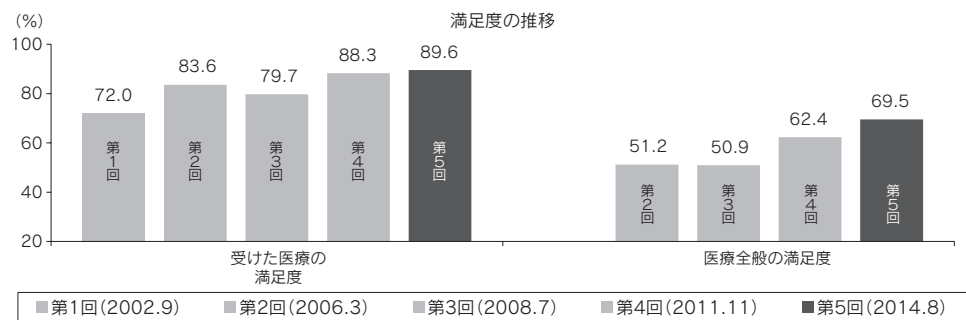
満足していない要因を探ることは、今後の医療の向上に不可欠である。「受けた医療」に不満な国民にその理由を尋ねると、上位3項目は「待ち時間」（44.4%）、「医師の説明」（43.4%）、「治療費」（41.4%）であった（複数回答）（図2）。これらの上位3位については、同じ選択肢

で調査を始めた第3回調査以降同様の傾向である。一方、「日本の医療全般」に不満な理由は、「国民の医療費負担」（50.4%）、「医師の体制」（39.5%）、「効率性・利便性（待ち時間など）」（38.7%）の順であった。これらも、第3回以降、同じ傾向が示されている。

③ 医療満足度に影響を与える要因

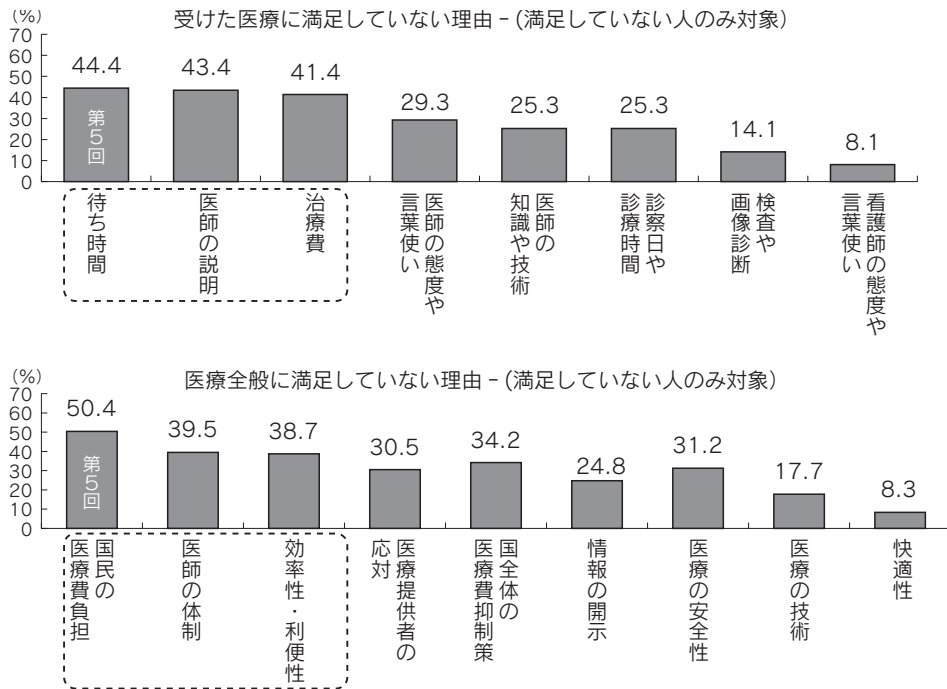
医療満足度に影響を与える要因については、第4回調査で重回帰分析を行った¹。今回はそれぞれの項目の特性と、満足度全体との関連性を分析し、視覚的にわかりやすく示すことを試みた。まず、受けた医療については、満足していない理由の割合を横軸に、それぞれの項目と受けた医療の満足度との相関係数を縦軸に示した（図3）。その結果、「医師の説明」は受けた医療の不満の理由として割合が高く、また、受

図1 受けた医療の満足度、医療全般の満足度の推移（n = 1,122）



1 「第4回日本の医療に関する意識調査」（日医総研ワーキングペーパーNo.260、2012年。江口・出口）で受けた医療の満足度と日本の医療全般の満足度、それぞれについて重回帰分析を行った結果、受けた医療の満足度に最も影響を与えていたのは、医師の説明であった。また日本の医療全般の満足度に最も影響を与えていたのは、医療機関の安全性であった。

図2 受けた医療、医療全般に満足していない理由



けた医療（全体）の満足度への影響が大きいことがわかった。

一方、「待ち時間」は不満の理由としては高い割合であるが、受けた医療全体への影響は低かった。これらの結果は既存の重回帰分析の結果と一致する。一般に、「待ち時間」は医療の不満の理由として挙げられるが、医師が行う説明が満足度に大きく影響しており、たとえ待ち時間が長くても、医師が十分な説明を行うことで、医療満

足度が上がることが推測される。次に、日本の医療全般の満足度については、個別項目の満足度スコアを横軸に、個別項目と日本の医療全般への満足度との相関関係を縦軸に示した（図4）。

その結果、「医療機関の安全性（医療機関が安全だと思うか）」に対する評価は個別項目の中で最も高く、また、医療全体の満足度にも強い影響を与えていることが明確に示された。患者一人ひとりの性格や立場、希望などを考えた「個

図3 受けた医療の満足度と不満の理由（面接調査）

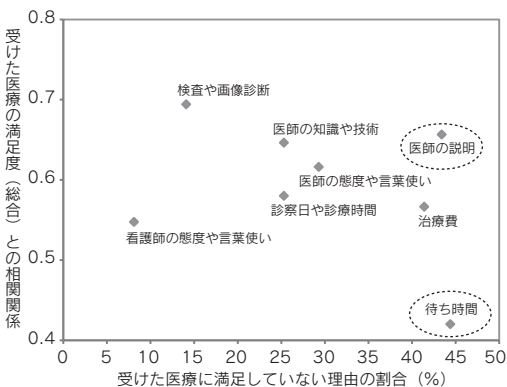
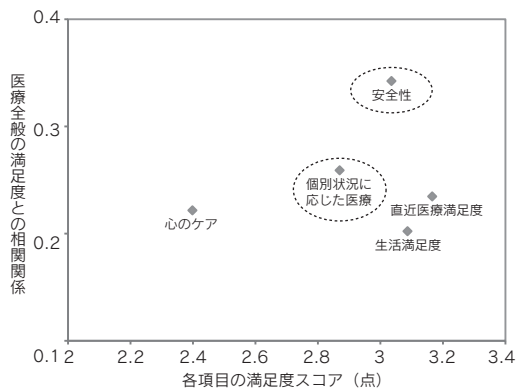


図4 日本の医療全般への満足度と平均満足度の関係（面接調査）



別状況に応じた医療」も満足度への影響が高い傾向がみられた。

(2) 国民が考える医療の重点課題

国民が考える「医療提供体制において重点を置くべき課題」は、「高齢者などが長期入院するための入院施設や介護老人保健施設の整備」(56.4%)、「夜間休日診療や救急医療体制の整備」(49.6%)、続いて「医療従事者の資質の向上」(33.3%)であった。これらの中で、「長期入院施設の整備」と「夜間休日・救急医療」は、今回を含めた過去5回の全調査で、上位2位の最

重要課題と認識されている。40歳代を境に、若年層は救急医療を、高齢層は長期入院のための整備を最重要課題と考えている(図5)。都市部など、今後の高齢化が急速に進む地域では、長期に療養する病床(あるいは介護施設)の不足という課題を抱えており、そのような現状を反映していると推測される。

(3) 医療などに対する不安の地域差

地域や国全体で人口減少と少子高齢化が進んでいることに対して全体の66.2%の国民が不安を感じていた。また、全体の約4割が「希望し

図5 国民が考える重要課題 - 上位2項目、年齢別

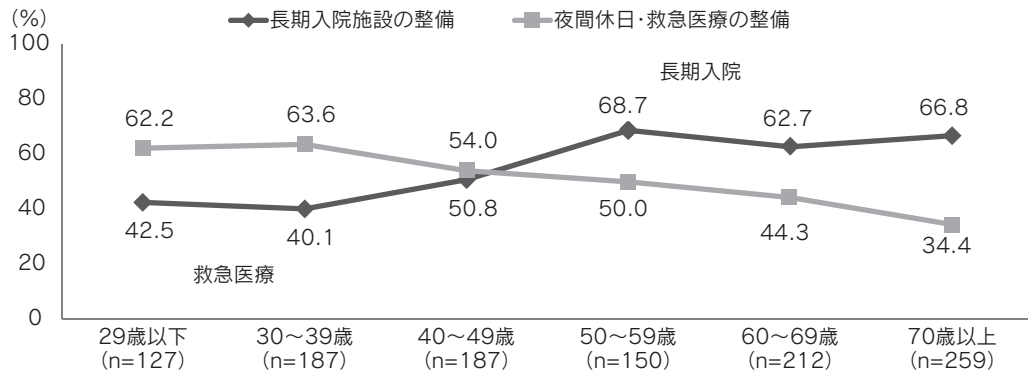


図6 不安に感じること - 地域別

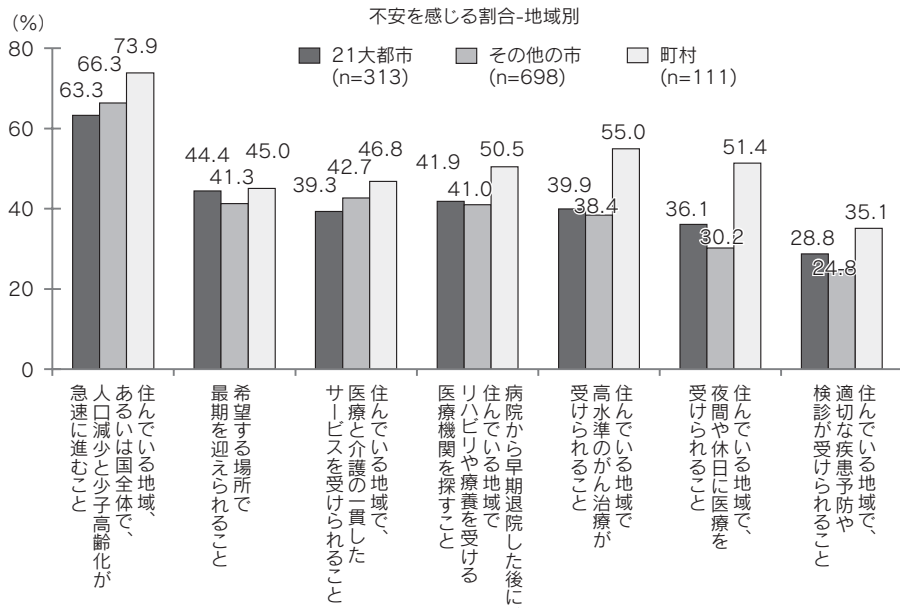
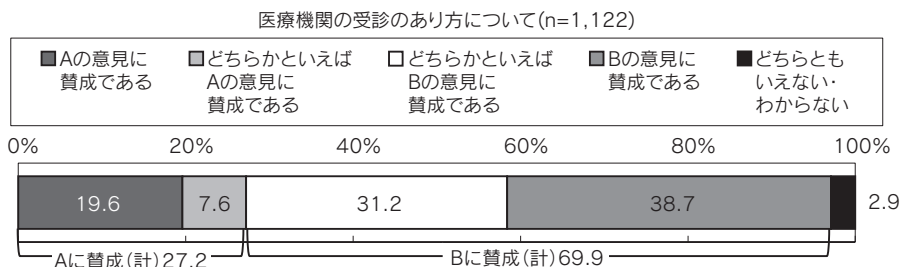


図7 医療機関の受診のあり方

Q21 医療機関の受診のあり方として、次のAとBの2つの考え方について議論されています。あなたはどちらに賛成しますか。
 A 病気の程度に関わらず、自分の判断で選んだ医療機関を受診する
 B 最初にかかりつけ医など決まった医師を受診し、その医師の判断で必要に応じて専門医療機関を紹介してもらい受診する



た場所で最期を迎えられる」、「医療と介護の一貫サービス」、「早期退院後の地域でのリハビリや療養」、「地域での高水準のがん治療」に不安を持っていた。不安の度合いには地域差があり、町村など地方部では、療養医療、高水準の医療、夜間休日の医療への不安が高い傾向が見られた(図6)。希望する場所で最期を迎えることについては、都市部と地方部の差が少なく、いずれの地域でも不安を抱える傾向がみられた。

(4) 医療機関の受診についてのニーズ

一般に、受診のあり方として、最初に病院の専門医にかかるのではなく、「最初にかかりつけ医など決まった医師を受診し、そこで専門医を紹介してもらおう」ことを望む人が69.9%を占めた(図7)。かかりつけ医など決まった医師を受診することを多くの国民が望んでいる。一方、病気の程度に関わらず自分の判断で選んだ医療機関を受診することを望む人は27.2%であった。年齢による違いはほとんど見られなかった。紹介状なしの大病院受診に伴う患者負担増の周知度が高まっていることも一因と推測されるが、身近なかかりつけ医がいて、その医師を診療することへの要望が高いことを示している。

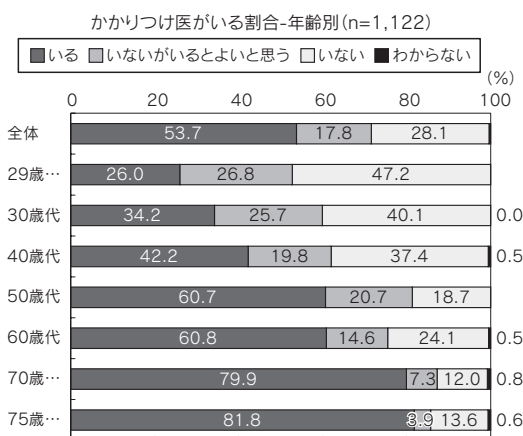
(5) かかりつけ医への期待

① かかりつけ医がいる人の割合と期待

かかりつけ医は、健診などの予防を含めた日常診療や、在宅医療、病院や介護施設との連携など、地域で果たす役割が大きい。住民の身近で頼りになり、健康管理を行ってくれる「かかりつけ医」に対する国の期待は大きく、在院日数短縮化のなか、急性期病院からの退院患者を早期に地域で受け入れるニーズも高まっている。

かかりつけ医の定義として、「健康のことを何でも相談でき、必要なときは専門の医療機関へ

図8 かかりつけ医がいる割合



2 「医療に関する国民意識調査」(健康保険組合連合会 2011年。インターネット調査)ではAに賛成(計)30.0%、Bに賛成(計)56.7%であった。本調査(日医総研)は同様の設問を面接とWEBで実施。WEB版の結果は、Aに賛成(計)29.6%、Bに賛成(計)57.2%で、健保連調査とほぼ同じ傾向であった。

紹介してくれる、身近にいて頼りになる医師」と示したうえで、まずは、かかりつけ医の有無を尋ねた。全体の53.7%の国民は「かかりつけ医がいる」と回答し、うち75歳以上の高齢者では81.8%にのぼった(図8)。若い人ほどかかりつけ医がいる割合は低いが、「いないがいるとよい」と思う割合は比較的高い傾向がみられた。

かかりつけ医に対して国民は多くのことを期待している(図9)。望む医療や体制を尋ねると、①専門医への紹介(93.3%)、②紹介先への情報提供(87.0%)が高く、③どんな病気でもまずは診療できる(82.0%)、④疾病予防(79.0%)、⑤健診・検診(76.6%)と続いた(複数回答)。在宅医療や夜間対応も6割を占め、最期の看取り

図9 かかりつけ医に望む医療や体制(複数回答)

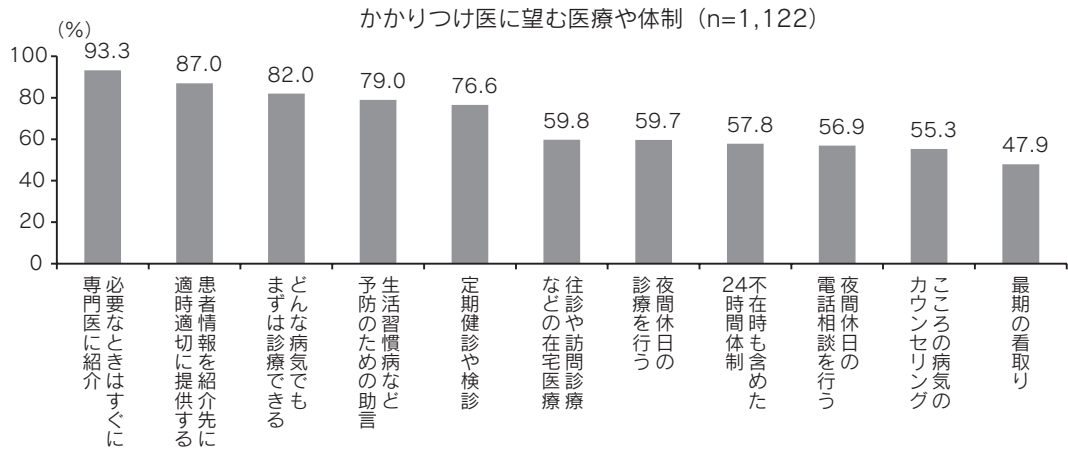
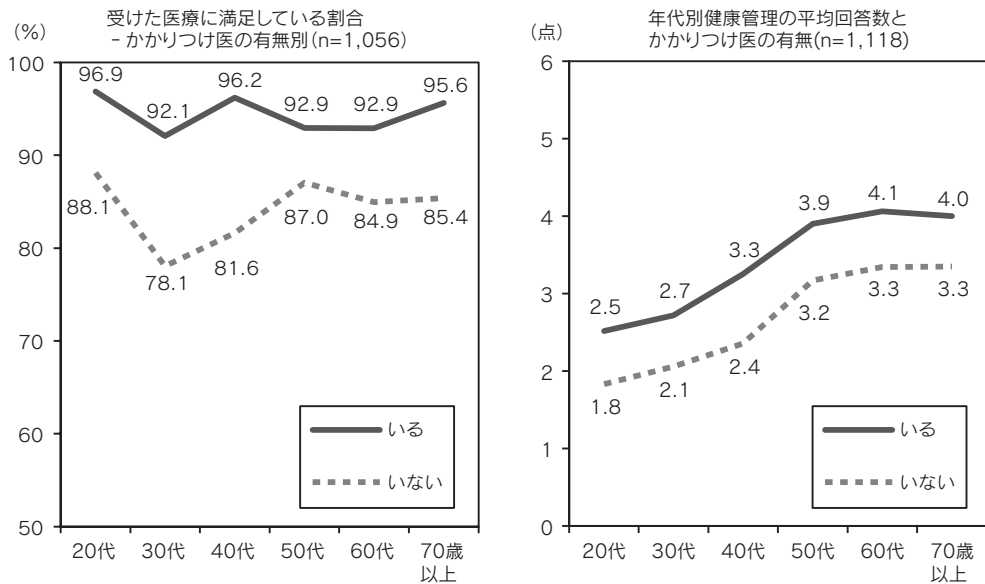


図10 受けた医療に満足している割合、健康管理項目の平均回答数



健康管理項目…「1.栄養バランスなど食生活に気をつけている」「2.運動や体操をしている(ウォーキングなどを含む)」 「2.規則正しい生活を心がけている」「3.休息や睡眠をとるようにしている」「4.サプリメントやトクホなどを定期的に摂取している」「5.新聞・テレビなどで健康の情報や知識を得るようにしている」「6.健康診断(定期健診、特定健診、人間ドックなど)を定期的に受けるようにしている」について「あてはまる」の回答数

りも47.9%に上った。特に、専門医への紹介を望む人が9割で、ゲートキーパー機能のニーズが高く、また、幅広い診療や予防などの健康管理へのニーズが高いことに注目すべきである。

②かかりつけ医を持つことの効果

かかりつけ医の有無別に、受けた医療の満足度、健康管理の度合いについて比較を行った。その結果、かかりつけ医がいる人は、いずれの年代においても満足度が高く、より多くの健康管理項目に○を付ける傾向がみられた(図10)。かかりつけ医を持つことで、安心感が高まり、また、かかりつけ医からのさまざまなアドバイスなどにより、自身の健康管理に対する意識が高まるという効果が明らかになった。

(6) 希望する介護の場とサービス提供者

本来、医療と介護は一体的に提供される必要があるであり、介護の充実が医療の向上にもつながる。高齢で介護を必要とする状態になった際にどこに住みたいか、という質問に対して、「できれば自宅に住みたい」と回答した人が47.0%にのぼった。老人ホームなどの居宅は23.7%、介護施設は19.7%であった。高齢になるほど自宅を望む割合は高くなり、75歳以上では55.8%であった。

介護を受ける場合、家族からの介護サービスを受けるのがよいか、外部介護サービスから受けるのがよいかについて尋ねると、自宅で介護

受ける場合でも、外部の介護サービスを望む人が42.5%を占めた(図11)。家族構成の変化や家族主体の介護の負担感の重さ等に起因して、家族ではなく、外部の介護サービスへのニーズが高いことがわかる。今後の独居世帯の増加等とあいまって、介護サービスのニーズの急増が予想される。

(7) 面接調査とWEB調査の比較

最後に、本調査は、第1回より継続してきた面接調査を主軸とし、WEB調査も並行して実施した。結果は、多くの設問で両調査の回答傾向は同じであったが、回答の数値・割合については差異が見られるケースもあった。年齢調整などにより差異は縮小したが、有意な差が残るケースもみられた。具体的には以下の通りである。

WEB調査結果の属性分布(年代別・健康状態別分布、年代別・居住都市規模別分布)を、面接調査結果の分布と同一にするようウェイト調整を行い、WEB調査結果が面接調査結果にどの程度近づくかを確認した。多くの設問においてWEB調査結果が面接調査結果に近づく方向に補正された。特に、「年齢・健康状態」の回答者属性分布を面接調査結果と同一にするウェイト調整では、多くの設問項目において、面接調査とWEB調査の回答比率差を縮めた一方、受けた医療の満足度は、面接調査では89.6%、WEB調査では76.2%であったが、年齢・都市規模調整後はWEB調査で81.6%となった。また、衣料

図11 介護を受けたい場所と望む介護サービスの提供者

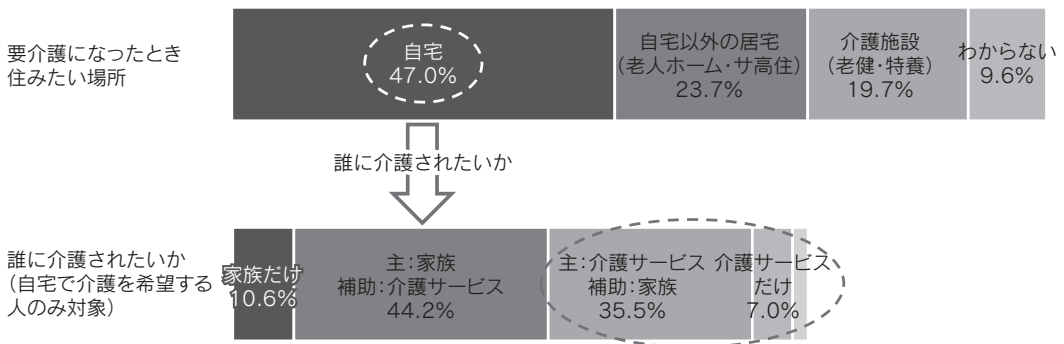
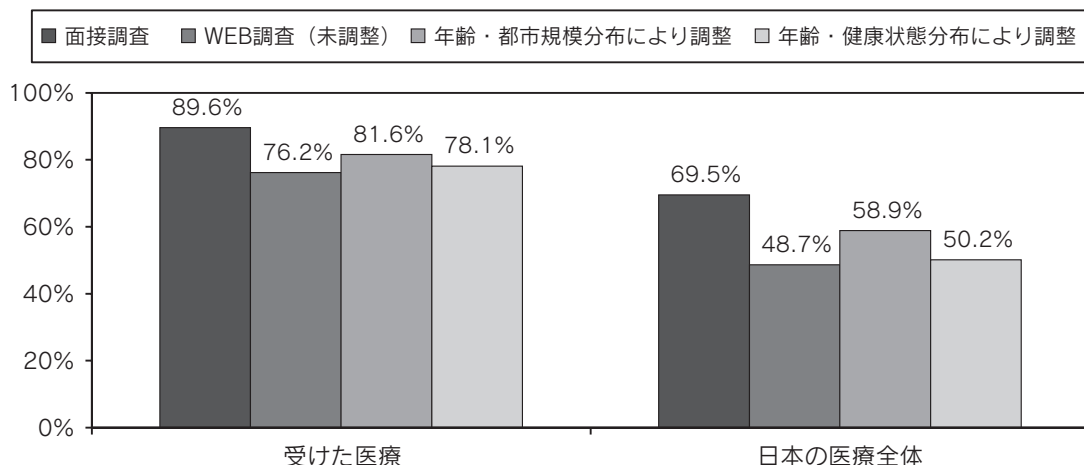


図 12 WEB 調査ウエイト調整後の医療満足度（受けた医療、日本の医療全体） - 面接調査、WEB 調査



全般の満足度は面接が 69.5%、WEB 調査調整後は 58.9%であった（図 12）。属性による調整後も一定の乖離があることから、年齢・健康状態などの属性だけでは説明できない、WEB 調査回答者に固有の属性（特性）が存在している可能性を示唆している。

そこで、全データを用いた回帰分析を行い、WEB 調査回答者に存在する固有影響の有無を確認した。その結果、多くの調査項目において、WEB 調査ダミー変数は、統計的に有意であった（図 13）。つまり、本調査での面接調査回答者と WEB 調査回答者は、異なる意識や価値観等を持っており、その結果、回答割合に差が生じていると推測される。それぞれの調査への参加する人の特性の違いと考えられる。

3. まとめと考察

■経年的にみた変化と今後の対応

国民の医療に対する意識を、直近の調査結果に基づいて分析した。受けた医療への満足度は高く、日本の医療全般への満足度も上昇していた。患者を尊重する、個別性のある医療を受けていると回答する割合も増加しており、医師患者関係の一定の向上を示すものと思われる。超高齢社会を迎え、さまざまな医療制度改革が実施されるなか、今まで築いてきた医師患者関係や信頼関係については、今後も維持することが重

要である。

■医師の説明

患者への「医師の説明」は、受けた医療の満足度への影響が強いことが明確に示された。一方、待ち時間は不満の理由としては高いが、受けた医療全体への影響は低かった。既存調査からも、医師が行う説明が患者の満足度に大きく影響していることが判明しており、このような実態を、医学教育の場などにおいて若い医師へも示し、医療者へ伝えていくことが必要である。

■医療に関する不安の解消

国民が考える医療の最重点課題は、長期入院できる施設の整備（56.4%）で、前回調査に比べて割合が増加した。また、地域医療に関するさまざまな不安は、町村などの地方部の住民は、都市部に比べてより強い不安を抱えている。特に、夜間や休日の医療、高水準のがん治療、夜間休日の医療について、地方部ではより多くの人が不安を持つ傾向がみられ、医療介護の地域格差を反映している可能性がある。2025 年に向けて、都道府県では地域医療構想の策定が進められているが、住民の住むそれぞれの地域事情に応じて提供体制の整備を行い、住民の不安の解消に向けた対応が行われることが望まれる。

■かかりつけ医への国民の期待と医療側の今後の対応

図 13 各回帰分析における WEB 調査ダミー変数に関する推定結果 (一部)

被説明変数	偏回帰係数	t 値	P 値
医院・診療所や病院の満足度 (1) 医師の知識や技術について	-0.3310	-12.29	[.000]
医院・診療所や病院の満足度 (2) 医師の説明のわかりやすさについて	-0.3074	-11.06	[.000]
医院・診療所や病院の満足度 (3) 医師の態度や言葉使いについて	-0.3177	-11.38	[.000]
医院・診療所や病院の満足度 (4) 看護師の態度や言葉使いについて	-0.2745	-10.42	[.000]
医院・診療所や病院の満足度 (5) 待ち時間について	-0.0975	-2.67	[.008]
医院・診療所や病院の満足度 (6) 診察日・診療時間について	-0.1732	-5.66	[.000]
医院・診療所や病院の満足度 (7) 治療費について	-0.2000	-6.01	[.000]
医院・診療所や病院の満足度 (8) 検査や画像診断について	-0.2693	-9.45	[.000]
医院・診療所や病院の満足度 (9) それでは、総合的にみた場合	-0.1937	-7.30	[.000]
日本の医療全般への満足度	-0.2261	-7.86	[.000]
かかりつけ医の有無	-0.4479	-8.46	[.000]
医療保険のあり方について	0.2647	9.17	[.000]
不安感-地域で夜間休日に医療を受けられる	0.2494	7.83	[.000]
不安感-地域で高水準のがん治療を受けられる	0.2737	9.26	[.000]
不安感-早期退院後、地域でリハビリや療養を受ける医療機関を探す	0.3094	10.50	[.000]
不安感-地域で医療と介護の一貫したサービスを受けられる	0.2794	9.62	[.000]
不安感-地域で適切な疾患予防や検診を受けられる	0.0490	1.54	[.123]
不安感-地域、国全体で人口減少と少子高齢化が急速に進むこと	0.2793	9.09	[.000]
.....
医療機関の受診のあり方について	-0.2300	-3.90	[.000]
定期的にかかりつけ医の診察を受けている	-0.0621	-1.20	[.232]
栄養バランスなど食生活に気をつけている	0.1618	3.06	[.002]
運動や体操をしている (ウォーキングなどを含む)	-0.0367	-0.71	[.475]
規則正しい生活を心がけている	-0.1319	-2.59	[.010]
休息や睡眠をとるようにしている	-0.0230	-0.40	[.686]
新聞・テレビなどで健康の情報や知識を得るようにしている	-0.0284	-0.55	[.583]

受療のあり方として、国民の7割が大病院ではなく、身近な医療機関をまず受けることを望んでいることが改めて示された。かかりつけ医への期待を示すものともいえる。また、多くの国民は、かかりつけ医に対して、専門医への紹介、予防などの健康管理、幅広い診療、在宅医療、看取りなどの要望を持っている。今後の地域医療の構築にあたっては、かかりつけ医に対する地域住民の期待に応えていくことが大きな課題である。

また、必要とする人にかかりつけ医を紹介し、より多くの国民がかかりつけ医を持てるよう、地域で情報提供を徹底して行うことが必要である。それと同時に、かかりつけ医の機能の強化に向けて、医師の生涯研修等の充実を図る必要がある。全国で構築が進められている地域包括ケアシステムのなかでも、地域のかかりつけ医が果たす役割は大きく、早急な対応が求められる。

■ 面接調査と WEB 調査

一般に、WEB 調査による満足度は低くなる傾向があるが、本調査では、ほぼ全ての設問について面接調査と WEB 調査の結果を比較し、分析を行った。その結果、回答傾向は同様であったが、年齢や居住地域などの調整後も、数値割合に有意差がみられる設問が多くみられた。医療の意識調査において面接調査と WEB 調査を同時に実施したことで、今後の医療に関する意識調査の手法のための情報が得られた。

「日本の医療に関する意識調査」は今後も継続して実施し、時代の変化に伴って変わる国民の意識、変わらない意識について把握していく予定である。

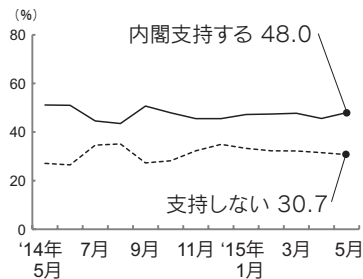
◇ 告 知 板

5月の時事世論調査

5月の時事世論調査の結果、安倍内閣の支持率は前月より2.4ポイント上昇して48.0%となった。不支持率は同0.8ポイント減の30.7%だった。

安倍首相は、国賓級として訪れた米国で54年ぶりに議会演説し、先の大戦への「痛切な反省」に言及、戦後の日米和解の歩みを強調した。従来の歴史認識を引き継ぐ考えも述べたが「侵略」や「おわび」の言葉はなく、韓国などからの批判も生じた。また日米同盟のさらなる強化として集団自衛権の容認にもとづく安保法制を今夏に成立させると表明した。先行して日米ガイドラインの改定を米国と合意し、公明党との与党内協議を精力的に進め国会へ提出する法案の準備をすすめた。

調査は全国の成人男女2,000人を対象に、個別面接聴取法で5月8日から11日に実施。有効回収(率)は1,318(65.9%)。



この時期の国内の動きは、

高浜原発3、4号機の運転を差し止め：福井地裁は、規制委員会の安全基準は不十分で高浜原発の運転は認めないとの仮処分判決を下す(4月14日)。

首相と沖縄知事が会談：安倍首相は翁長知事に辺野古移設への協力を求めるも、知事は「反対の民意は明確」とし訪米時に米側に伝えるよう訴え(4月17日)。

市長選、3割が無投票：統一地方選の後半戦が告示され、県庁所在地の長崎、津など89の市長選のうち無投票が3割を占める

(4月19日)。

安保法制、与党協議が決着：公明党が主張した自衛隊の派遣の国会承認は、審議日数制限つきながら例外なく義務づけるなどで合意が成立(4月21日)。

首相官邸にドローン墜落：屋上で小型無人機が見つかり、機体に放射性セシウム入り容器が装着されていたことが判明(4月22日)。

日経平均が2万円：ITバブル期の2000年4月以来、15年ぶりに終値で2万円を回復(4月22日)。

日中、関係改善で一致：バンドン会議60周年記念会議でジャカルタを訪問した安倍首相は習近平主席と25分間会談。主席が「歴史の直視」を指摘したのに対し「歴代内閣の歴史認識を引き継ぐ」と応じる(4月22日)。

日米防衛指針を改定：集団的自衛権行使に伴い自衛隊の米軍協力を地球規模に拡大し、平時から緊急事態まで切れ目のない対応をする内容へ(4月27日)。

首相が米議会で演説：訪米した安倍首相は上下院合同会議で演説、先の大戦への「痛切な反省」に言及、従来の歴史認識を引き継ぐとした。一方、侵略やおわびの言葉は使用せず、安保法制を夏までに成就させると表明(4月29日)。

明治の産業革命遺産を登録勧告：ユネスコの諮問機関は、軍艦島、八幡製鉄所、三池炭鉱などを世界遺産とするよう勧告(5月4日)。

国外では、

中国、パキスタンに5兆円投資：習近平主席が初訪問し、中国ウイグル自治区とアラビア海を結ぶ輸送路の整備など巨額投資で合意(4月20日)。

ネパールで大地震：カトマンズ付近で発生したM7.8の地震で、日本人1人を含む8千人を超える死者が発生(4月25日)。

英総選挙、保守党が単独過半数：大幅減の自民党との連立な

して過半数を維持。独立派のスコットランド民族党は躍進、EU離脱派の英国独立党は伸びず(5月7日)。

露、対独戦勝70周年式典：モスクワでの最大規模の軍事パレードには、中国の習近平主席も列席。欧米日首脳は参加見合わせ(5月9日)。

政党支持率 自民党は前月比2.1ポイント減の23.2%。民主党は同0.2ポイント減の5.4%、公明党は1.0ポイント減で3.2%となり、1.2ポイント上昇して3.6%となった共産党を下回った。共産党が公明を上回ったのは2006年4月以来ほぼ9年ぶり。維新の党は0.2ポイント増の2.2%、社民党は0.8%だった。支持政党なしは59.4%で前月より1.0ポイント増加した。

政党支持率 (上段：5月、下段：4月)

自民党	民主党	維新の党	公明党	共産党	社会党	生活党	その他の政党	支持政党なし
23.2	5.4	2.2	3.2	0.1	3.6	0.3	0.8	0.1
25.3	5.6	2.0	4.2	0.2	2.4	0.1	0.4	0.1

国民の景気感 「良くなった」は前月比で0.5ポイント低下し10.7%、「悪くなった」も3.2ポイント低下して20.2%となり、時事世論景気指数は前月比4ポイント増の134で、6ヶ月連続の上昇となった。

時事世論景気指数

2007年	08年	09年	10年	11年	12年	13年	14年
117.2	42.0	61.0	96.8	84.1	97.2	143.8	129.1
14年(4月)	118	135	141	137	129	120	113
(11月)	(12月)	15年(1月)	(2月)	(3月)	(4月)	(5月)	
110	112	115	119	124	130	134	

暮らし向き 昨年は今頃と比べて「楽になった」は前月と変わらず4.2%、「苦しくなった」は前月より3.4ポイント減の26.9%となった。